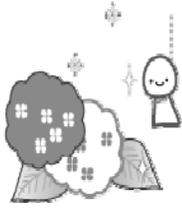


行事予定表		
6	水	リトミック(2歳児以上)
7	木	絵本の読み聞かせ(5歳児)
12	火	ピヨピヨひろば
13	水	保育園探検
14	木	カレーの日
15	金	交通安全教室(5歳児)
19	火	つつじが丘・ふたばランド交流会
20	水	おべんとうデー
21	木	サロン
28	木	誕生会
29	金	避難訓練



紫陽花が色づいてきました。もうすぐ梅雨入り。雨に打たれるたびに色を濃くする紫陽花には雨が似合う。降る雨と紫陽花をぼんやり眺めるのもいい。時には雨もいいものだ。憂うつな雨も、子ども達は楽しんでしまう。大人は水溜りを避けて歩く。子ども達はわざわざ水溜りを探して足を突っ込む。楽しそうに水をバシャバシャ跳ね飛ばして歩く。雨の間の散歩ではカタツムリ捕りに走り回る。葉の裏、石壁の隙間に集中する。しかし、お母さんは大変だ。晴れ間に、ソレ！とばかりに洗濯にかかる。



サツマイモの苗植え

・今年も4・5歳児でサツマイモの苗を植えました。1人1つの苗を両手で大事に持ち、斜めに苗を植えるのに苦労していました。その後は畑の草を取り、イチゴの花や実の様子を眺める子どもたちでした。今後収穫まで、子ども達自身が開わっていきけるように配慮していきます。
※今年もツバメが巣作りをし、もう、可愛い雛が巣から顔を出しています。子ども達と巣立ちまで応援していきますね！

今月の予定の中から...

●リトミック(6日)

・今月から2歳児もリトミックに参加します。日常の保育の中でピアノの音を耳や心で感じ、表現することを楽しんでいる子ども達です。

●保育園探検(13日)

・牛久二小の1年生が授業の一環として保育園を訪問します。その中には卒園児もいることが多く、小学生に逢えるのが楽しみです。

●カレーの日(14日)

・カレーの日を通し、ぞうグループには責任を持って役割を果たす喜びや達成感を味わってほしいと願っています。また、園全体でカレーの日に向かっていきたいと思えます。

●交通安全教室(15日)

・今月までは午後に行うため、5歳児のみの参加となります。雨の日の交通安全と傘の使い方について教わるので、是非実践してください。

●つつじが丘・ふたばランド交流会(19日)

・つつじが丘保育園・ふたばランド保育園の年長児が来園し、遊びを通して交流を深めます。

●おべんとうデー(20日)

・食品管理の難しい季節です。お弁当は、よく冷ましてから蓋をして、保冷剤(油性ペンで名前記入した物)を必ず入れて下さい。

☆おねがい☆お知らせ

★お迎えカードは携帯していますか？

・毎日のお迎えや行事の時は必ずお迎えカードを首から下げて下さい。

★降園時にお子さんをお引き取りになった後はお子さんから目を離さないようにお願いします。廊下を走る姿が見られたら大人が注意しましょう。(園内は0・1歳の小さい子ども達がいまいます。) また駐車場では、お子さんと必ず手をつなぎましょう。



「隊長解任！」

初夏を思わせるカラッと晴れたお天気に誘われて、お散歩に出かけた。園長先生が探検隊長だから、注意をよく聞くようにと伝え、「出発！オー」の掛け声、勇ましく出発した。擦れ違うおじさん、おばさんに大きな声で元気に「コンニチワ」と挨拶、「明るくて元気ですね！」「気持ち良いあいさつで、気分が良くなりました。」と誉められて、こちらもとても良い気分になった。途中で、病院の看板など、平仮名と片仮名だけを讀んで眼科クリニック？眼科は目のお医者さん、ここは小児科コードのお医者さん・・・など、自分の経験した情報を交換し合いながら、つつじが満開になった道を進んだ。消防署では、署員に説明してもらい、消防車をグルッと一回りした後、隣の農協を覗き込み、精米機を見て、お米を脱穀する機械だと説明した。しばらくすると田圃道に出た。つないでいた手を離し、自由に歩いた。タンポポの綿毛を飛ばしたりして行くと、すぐに園の近くの裏通りに来てしまった。先頭集団の年長児は「エーもう終わり、これじゃー探検じゃないよ！」と口を尖らせた。目の前には園の裏山の荒れ果てた雑木林がそびえ立っていた。▼子ども達の中から「K先生とこの森を探検したことがある。」と声が上がった。崖が崩れ、少し空間ができていたところを指さし、「ここから幼稚園まで行けるよ」と言う。少し心配になったが、やる気満々の年長児に急かされるように「では探検に行こう」ということになった。崖を登って少し進むと、倒木だらけ、数十年手を入れていない、うっそうとした昼なお暗い、篠竹と雑木が密生して、茨やトゲのある木に前進を阻まれる。子ども達をケガさせてはならぬと、茨を倒しながら進むものだから、先頭の隊長の腕は傷だらけ、血だらけ。半ベソで「こんなところについてこなければ良かった」と言う子。私も来なければ良かったと後悔していたが、A君が、「オレ達は、もう年長なんだから、そんなこと言わない、頑張れ！」と叱咤した。悪戦苦闘したが、とうとうこれ以上は危険だと、撤退を余儀なくされた。後ろを向いて、「オーイ、引き返すぞ」と言うと、元気なグループが「頑張れば行けるのに」と言う。それでも、引き返すことに同意してくれて、今来たルートを戻った。▼帰路、今まで先頭集団だった最後尾になった年長児たちの話し声が聞こえた。「もう、園長先生は隊長だめだな」「体操の先生じゃないしな。」するとA君が、私を弁護してくれたが、もっと落ち込むことを言った。「そんなこと言うなよ！園長先生だって頑張ったんだから、仕方がないだろう、おじいさんなんだから...」と、とほほ...「その通りです。」私は自分の年を自覚し、ガツクリと肩を落とし、無言のまま彼らの後に従った。サッカーのハル監督の心境が少し分かった。しかし、ふたばっ子は優しい。必ずフォローしてくれる。降園時に「園長先生、又隊長になって、探検に連れて行って。」と言うのである。「よーし！次は安全な森林公園に連れて行くぞ！」と声には出さずに心に誓ったのであった。

理事長 浅田 精利

